

平成28年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名	遠隔医療ネットワークを応用した大学横断型技術研修プロジェクト (支援期間：平成 28 年度～平成 28 年度)			
大学名	所属	氏名		
福井大学	ライフサイエンス支援センター	○ 柄谷 和宏		
金沢大学	先端科学・イノベーション推進機構	○ 渡辺 良成		
富山大学	研究推進機構 研究推進総合支援センター	○ 五味 知治		
注1. 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印。 注2. 所属（その他の機関については職名も）については、平成29年3月末現在を記入。				
その他の機関の構成員	機 関 名	所 属	職 名	氏 名
	旭川医科大学	教育研究推進センター	准教授	竹内 文也
成果概要	<p>【研究目的】 共通機器を管理する職員を各大学の実験教育担当者として位置付け、これらの職員を対象とした大学横断型技術研修会により、大学全体への最新実験技術の拡散と研究の活性化を目指す試みを平成27年度より開始している (http://www.med.u-fukui.ac.jp/CRL/skullsession/)。この試みに賛同する大学が増えつつあり、多くの大学が参加できる研修会として進展させていくには効果的な大学連携の手段が必要になってきた。本研究は、旭川医科大学と北陸3大学を連結した遠隔実習システムを組み、実際の遠隔実習試行を通して、大学横断型技術研修のためのシステムとしての有用性を検証する。</p> <p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福井大学、金沢大学、富山大学にスピーカ一体型のカメラを接続した解析実習用のパソコンスペースを設置。接続用ソフト（旭川医科大学から提供）と解析実習用ソフト（アフィメトリックス・ジャパン社から提供）をこのパソコンにインストール。実習受講用の環境を整備した。 2. 旭川医科大学担当者を通じ遠隔医療ネットワーク、ウェブ会議機能の利用手続きと接続時の技術支援員を手配し、実習配信用環境を確保した。 3. 平成28年10月25日に「DNAアレイ解析」を実習テーマとして大学横断型技術研修会（遠隔実習編）を開催した。 <p>【結果と考察】 平成28年10月25日に大学横断型技術研修会（遠隔実習編）を開催。本研究グループの旭川医科大学と北陸3大学以外にも参加校が増え、最終的に6大学9拠点で24名が受講した。この実習の経緯と実施報告は http://biokiki.webcrow.jp/remote2016.html で公開している。受講者アンケート結果は良好で、実習の進行が円滑であったことも含めると、「解析実習」としては実務的な大学連携型の実習として成立していることが証明された。福井大学共通機器部門でのDNAアレイ実験数の増加など、研究活性化への寄与を示唆するデータも得られているが、今後さらなる追跡調査は必要と考える。 学会での実施報告を通して、今後の本格的な実施を期待する意見や、バイオインフォマティクス関連の解析についての支援手段として期待する意見が寄せられた。本研究を通して研究支援に利用できる可能性は見出ししており、相互技術支援へのシステムの適用を含めて、今後さらに大きく展開していくことを考えている。</p>			
獲得した外部資金	<ul style="list-style-type: none"> ・ H28 挑戦的萌芽研究(H26～H28), 研究シミュレーションによる新たな医学系大学院教育の確立, 柄谷 和宏(代表), 2,900 千円 			